

日高市で一番最初にできたニュータウン「日高団地」。このまちに暮らす人々の今をお届けします。

住め 日高 1



茜谷節子さん

やりたかった理想のお店を 思いのままに追求。

4年ほど前に、川崎市から日高団地に越して来た茜谷節子さん。夫が病気がちで、終の棲家にしようと、のんびりと過ごす日当たりのいい住まいを求めます。ところが、事もあろうに引っ越しを予定していた前月に夫が他界。「落ち込まないタイプの私ですが、しばらくは何も手につきませんでした」と当時を振り返ってくれました。

落ち込んでばかりもいられず、計画していたおばんざいのお店を自宅の一角でオープン。もともと川越で同様の商売をやっていましたが、パートナーを失ったことで、すべての時間を自分のためだけに振り向けるしかなくなり、思い描いていた夢を追求するようになります。

こだわったのは、顔の見える関係のなかで旬の食材を手に入れることでした。地元の農家から旬の野菜を提供してもらったり、畑を借りて教わりながら野菜づくりにも挑戦。さらには、紹介してもらった漁師さんにつながり、自らの運転で熱海市網代まで魚を仕入れに行くようにも。「この齢になったら、やりたいことをやるしかないじゃない」と節子さん。持ち前のアグレッシブさで、お客さまから求められる理想のお店をつくり込んでいきます。

取材中にも、惣菜を買いに来た常連客に声を掛ける様子…。今では、この団地になくはならないお店になっています。



お店をお手伝いしてもらっている甥っ子さんと。頑張るときは頑張るけど、羽を伸ばすときは伸ばす。仕入れついでに熱海市網代の温泉で羽を伸ばしてあげることもあるそうです。



手作りお惣菜の種類は豊富。量り売りなので、必要分を買うことができます。朝4時頃には仕込みを始めるそうです。



常連さんに話しかけることもしばしば。良い関係を作っています。



■フリーペーパー「住め日高」1～4号を発行。

文化新聞の連載記事「のこしたい店・たのしみな店」における「スーパーみどりや」への取材をきっかけに、元気なシニアが活躍する日高団地に可能性を感じ、フリーペーパーを発行(取材執筆:いしいデザイン グラフィックデザイン:黒田デザイン事務所 / 日高団地自治会の協力のもと、日高団地全戸配布)。本記事は4号(2023年9月発行)掲載分を調整したものです。



茜屋さんは、「日高あんしんねっと」登録事業所 となっています。

おばんざいの茜屋

日高市高萩東1-28-12
水、木、金、土 11時～18時(休憩14時～15時半)